

楽しく儲かる農業 のヒントが見つけた

2023 June Vol.232
6月号

役に立つ情報満載!
ニュースレター



静岡農業技術支援協同組合 発行

変化する農業技術

除草剤は使えば使うほど強い雑草が出てくる!

玄米アミノ酸微生物農法

雑草対策のマルチの何が…?
マルチほど水害に弱いものはない!

玄米アミノ酸微生物農法Q&A

Q. みどりの放線菌と玄米アミノ酸液の併用はできますか?

農業経営と世界の変化

苗植後に高温がやってくると全滅になる可能性がある!

作物

ウリ科は花芽の時期に玄米アミノ酸の葉面散布で収量をアップさせる



除草剤は使えば使うほど

強い雑草が出てくる！

除草剤というのがある。雑草を

恐がつて多くの人が使用している。これだけ気温が高くなると除草剤は使うと、どのような問題が出てくるのだろうか。除草剤を使用すると草は出なくなると思っている人は多いと思う。実は逆なのである。**除草剤は使うほどに強い雑草が出てきてしまうのである。**そんなことはない：雑草は抑えられる！使うのを止めて翌年、放置をしたら、どうなると思うか。もの凄い雑草だらけになる。背丈に近いような雑草ばかりになる。土壌に自然回復力というのがあ。土壌自体が自然にバランスを保つという自然法則が存在するのである。除草剤によって汚染された土壌を復元しようとして雑草が出てくるのである。



一年、放置なんて、あり得ない。毎年、使っているから大丈夫…。
除草剤を毎年続けて使い続けていたらどうなるのか。そのうちに作物まで育たなくなる。雑草が出てこないというわけではない。雑草が抑えられていると言ったことではない。**雑草すら育たない土壌になっ**

てくるということがある。
気温の上昇と除草剤の関係はどのように考えればいいのか。実は、とても重要なテーマなのである。**薬剤という化学物質は気温に無関係ではない。気温が高くなるほどに薬剤効果も高まる。**寒い地方より暖かい地方での効果が

高いということになる。人間の薬も同じである。体温の低い人よりも体温の高い人の方が薬剤効果は高い。薬剤は化学物質である。それが分解されることによって薬剤効果を出す。これは常識である。



温度が高いほど分解されやすいことになる。薬剤効果が出て雑草の栄養が抑えられるのは良いことかもしれない。ところが、その薬剤は分解されて0になるわけではない。分解されても、その働きは残る。プラスチックが分解されると、ドンドン小さくなりマイクロプラスチックになる。マイクロになってもプラスチックの機能を失うことはない。薬剤も化学物質だから同じである。ずっと土壌にたまり続けていくことになる。どれくらいたったのか、と気にする人は誰もいない。

気がついた時には手遅れになっている。そうなると雑草だけではなく、作物も育たなくなってしまうのである。5〜10年以降には、各地でこのような現象が多発するのではと心配されるのである。



作物が育たなくなれば収入は0である。その時に農薬会社を訴えますか。訴えても土は元に戻ることはないのである。脅かしているわけではない。化学物質には、どんな問題があるのか。学習が必要なのである。除草剤は便利だ。周囲が使っているから私も使うでは、いずれ大きな問題に突き当たることになる。その時は自己責任になる。日本人は人柄の良い人が多いのだけれど、最後は自己責任ということをおぼわしているのではないだろうか。前後に除草剤で作物が育つことは100%、あり得ないと断言できる。**除草剤とは植物を枯らすものだからである。**

玄米アミノ酸 微生物農法

雑草対策のマルチのはずが…？

マルチほど水害に弱いものはない！

農業栽培の中で雑草ほど誤解のあるものも珍しい。ほとんど知識がない。ラウンドアップなどの除草剤で枯らせばいいと思っている。根がどれだけダメになると思うか。自分で自分の首を絞めている。しかもその後、または翌年、さらに強い雑草が出てくる。そのうちに耐性ができて枯れなくなる。



基本的に
ともと必要な
くなる。雑草で
悩むというの
は、それだけ基
本から遠くかけ
離れた農業をし

ているということである。

さらに雑草は緑肥だということだ。土の中にすき込めば微生物の栄養になる。乳酸菌もみがらぼかしを投入するほどに土の中に酸素が供給でき、耕すほどに雑草は少なくなる。三ヶ日みかんの畑のように雑草がほとんどない、これは不自然なのだ。異常なことを土にやっているのである。

作物によっても雑草対策は違ってくる。根菜類はほとんど気にする必要がない。根菜が実るところまで雑草は根を張ることはできないからだ。草が伸びたら管理機のようなものですき込めばいいと思う。ここで葉面散布をしたら雑草も伸びると心配になると思う。ジャガイモにしても、サツマイモにしても、ニンジンにしても、ナガイモにしても、葉というものは光を浴びるために上に出よ

うとする。雑草に負けまいと頑張る。少なくとも雑草よりも生命力は強く、根も張っている。



雑草よりも作物の方が強いということだ。これは果菜類にも言えることである。葉物は少し問題だが、これは雑草に負けやすいに少し手助けが必要である。ために草取りが必要になる。その時に必ず追肥と一緒にやるとか、別の作業も合わせてやるのがコツである。雑草をすき込めば、ほか

しと肥料効果はダブルになる。
果樹はもつと簡単だ。頭を落としてやればいいだけだ。草刈機だけで対策できる。頭を落とすだけではなく、枝葉の先端のそこ

ろにすき込めば、土も柔らかく、根の張りも良く、玉伸びも良くなる。雑草対策は考え方なのだ。雑草を見れば土の中の状態まで推測できる。そこまでできる人は稀である。

雑草対策はマルチ、全マルチ、ラウンドアップで対処すると考えている人は収量アップができない。規格外を大量生産するだけなのである。



マルチをすると、なぜ規格外が多くなるのか理由がある。ほ場の水分が片寄る。酸素供給量が片寄る。水に溶けた肥料分が片寄る。排水が片寄る。大きいか、小さいかのどちらかになる。適当な大きさにはならない。

また雑草には病気や害虫という心配がある。周囲の迷惑ということがある。それも程度の問題である。また翌年のことを考えて雑草対策は必要だ。このことについては、過去にも何度かお伝えをしているので省略をする。

玄米アミノ酸微生物農法 Q & A

Q みどりの放線菌と玄米アミノ酸液の併用はできますか？
いつもお世話になっております。

みどりの放線菌についてお尋ねいたします。

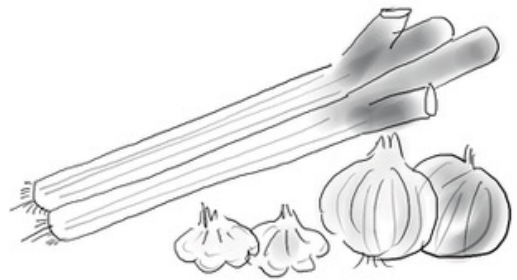
みどりの放線菌を玄米アミノ酸液に混入して、当方栽培作物に対して追肥として散布（灌注）、活用したいと考えております。

その際の以下事項について、ご教示いただきたくよろしくお願いたします。

- 1) 玄米アミノ酸とみどりの放線菌各々の希釈倍率
- 2) 追肥の使用開始タイミングと期間及び散布の頻度
- 3) みどりの放線菌の使用期限（未開封と開封後の双方について）
- 4) 竹酢液と併用可否の可の場合の竹酢液の希釈倍率について

<当方の栽培作物について>

1. 長ネギ（栽培面接1反）
2. 玉ねぎ（極早生）（栽培面接1.5反）
3. ニンニク（栽培面接0.7反）



尚、前提条件として、

- 1) 基肥として、3年前に牛ふん堆肥と有機肥料の投入をやめ、御社の乳酸菌もみがらぼかしを使用しています。

宮崎県 M様

A みどりの放線菌と玄米アミノ酸の併用は可能です！
竹酢との混合は不可です。

1. みどりの放線菌につきましては希釈のレシピがあります。
みどりの放線菌は定植後、間もなくか**幼苗の初期生育時**に使用してください。
2. **みどりの放線菌は温度に弱い**ため38℃以下で保存してください。
使用期限は特にありません。
3. **竹酢との混合は不可です。**

苗の定着後に高温がやってくる

全滅になる可能性がある！

いよいよ暑い夏が始まる。

昨年は6月25日から猛暑日が7日間も続いた。いつ高気温になっても不思議ではないのである。

その原因は海水温にある。海水温が高いままなのである。海水温が高ければ、南からの風が吹くと高気温になってしまうということである。

異常気象のパターンは毎年、まったく違う。同じということも考えにくい。風に大きく影響されるからである。日本も昨年のように限らない。大切なのは日本だけではなく世界を見ることである。世界を見るということも出かけるわけではない。**世界の情報を取ることも**である。現在ではインターネットで簡単に情報を取ることが出来るようになった。それを参考にするのである。



気象には境目がない。風にもない。海にもない。地球は、それ自体で一つの生命体なのである。他国で発生したことは日本でも発生する。ヨーロッパや中近東の情報は参考になる。風はヨーロッパや中近東からアジアに向って吹くからである。地球の自転軸の関係から逆はあり得ない。特に注目は中近東である。クウエートなどは60度近くにまで気温が上昇した。中近東の他の地区と比較して温暖化が早い。スペインなどの南ヨーロッパも同じことが言える。**60度近くまで気温が上昇するということとは、砂漠化も早いということになる。**熱い風はインド、ヒマ

ラヤ、中国を経て、日本にやってくることになる。



6月というと、苗を定植して間もない。種をまいても、まだ生長はしていない。そこへ、とんでもない高温がやってくる。もしくは大量の雨である。もう一度、植え直しといっても苗はないことになる。6月になってサツマイモの苗を売っていないことはないかもしれない。でも品質の良い物ではないだろう。しかし、そこからでは栽培期間が短過ぎて、収量は期待できない。しかも気温は上昇の一途になるのである。幼苗には過酷な環境になる。有機肥料などを使用しているとしたら、高気温で一気に分解する。徒長だけではない。チツソが多いと作物が溶けてしまうことさえある。高温障害と言えば、言えるかもしれ

ない。しかし、今までにはなかった高温障害になる。



この高気温に対応する方法はない。施設のハウスなどは暑過ぎて作業ができない温度になってしまうのではないだろうか。これまでは気温を下げるよりも上げることに工夫をしてきた。**温度を下げるには、温度を上げるよりもコストは必要になる。**猛暑日ということは、地面は40度に近いと考えて間違いがない。どんな作物でも35度を超えると生育は止まってしまうのである。それだけではない。人間の体調管理も重要なテーマになってくる。気温の低い早朝とか、夕方、または雨の日に仕事をするとか、工夫が必要になってくる。熱射病、熱中症は要注意である。すべての常識が変化する。それが異常なことなのである。

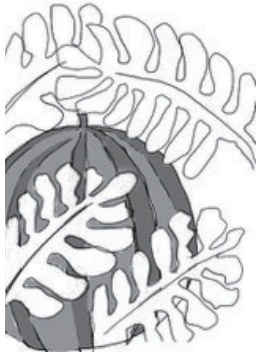
作物

ウリ科は花芽の時期に

玄米アミノ酸の葉面散布で収量をアップさせる！

夏と言えばウリ科である。スイカ、メロン、白ウリ、キュウリもそうである。ウリ科の基本は排水である。砂地などで栽培することが多いと思う。稲田の転作でもプライソラを何度もかけて、排水を良くしてやれば問題は無い。なぜ砂地なのか。それは細根量が、とても多いからである。酸素要求量が、とても強いということになる。土壌が団粒になつているほど作物が、よく育つということになるのである。

ウリ科に共通していることは葉が大きく、葉数が多いということである。スイカを見れば、よく理解できると思う。葉に隠れてスイカが見えなくなるほど葉が繁茂する。そのために害虫も多く寄ってくる。



コナジラミ、アザミウマ、アブ

ラムシ、葉ダニなどウリ科につきやすい害虫である。害虫の原因は肥料過多、特に有機肥料である。細根が多いということは、根を張ることさえできれば、葉は育つことを意味している。土壌を団粒にすることが何よりも大切なのである。それにはフランソラと乳酸菌もみからぼかしである。そして新芽グングンがあれば根の張りも、とても良くなる。時々スパーカルシウムの灌水をやれば十分である。

水分と言っても多量の水分ではない。土を通過した後の残り気で十分なのである。それでツルは伸びて葉が繁る。葉が繁った後は光合成である。光合成で、すべての栄養分を作り出すのである。必要なのは光合成をする水分なのである。



光合成をする水分ということ

は、玄米アミノ酸酵素液を霧状にして葉面散布をする。それも早朝、または夕方である。どちらでも良い。光合成をするには葉に水分が必要なのである。霧状にして葉裏から水分を吸収できるようにしてやる。葉はピンと立つて生き生きとしてくる。葉で作られた養分をさらに茎葉の生長に使う根の生長に使う。



ウリ科は花が咲く、花が咲く時が、一番、大切なのである。この時に玄米アミノ酸葉面散布を200倍で集中的にやる。着果も玉のびも良くなる。糖度も出る。ここが栽培の大きなポイントになるのである。着果してから収穫までの期間は決まっている。糖がのるのは着後の直後である。収穫、間際の10日。ここが勝負になる。この時も玄米アミノ酸の葉面散布である。ここさえやれば糖度の高いウリ科は収穫できる。

商品のお申込は ライフメールまで

ネットからのご注文はこちら
※ネット決済が可能になりました



玄米アミノ酸微生物農法・商品一覧
<https://aminofarming.com/collections/products>

玄米アミノ酸微生物農法
<https://aminofarming.com/>

FAX ☎0120-870-442 <24時間FAX受付中>

お問い合わせはメールかFAXでお寄せください！

Mail info@shizuoka-agrisupport.org

<24時間メール受付中>

静岡農業技術支援協同組合

〒422-8034 静岡県静岡市駿河区高松2-15-26

月～金 (9:00～17:00) 土・日・祝・年末年始(休業)